

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

事業実施団体 神原地区自主防災会

事業名	1	地域防災強化事業		
事業期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日			
決算額	102,806 円		助成金充当額	100,000 円
事業対象者	神原地区民		参加人数	234名
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・防災機器の点検活動（毎月1回 40名）・防災士会議の開催（毎月1回 72名） ・防災訓練（コロナのため中止）・防災研修会（3月18日山口大学の滝本教授を招き実施 24名） ・小学校の防災学習の連携で避難所等引率し説明する。（98名）			
事業目標	防災意識の高揚 ・防災機器の点検活動への参加者をふやす			
	数値目標	令和3年目標		令和3年実績
	毎月3名以上の参加者をめざす	36名		30名
	(達成できた、又は、できなかった要因) ・80%の達成。低い目標ではあったが、災害がない地区での危機意識の高揚は難しさを感じる。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) ・参加された方には、避難所であるふれあいセンターにどんな機材があり、どうすればいいのかが理解していただけたものと思う。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ・災害がないと言っても、いつ来るのかわからないのが災害であり、いざという時のために訓練しておくことが大切である。どうすれば危機意識の高揚ができるのか、もっともっと勉強しなければならない。			
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	② 3
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	② 3

(添付書類用)

令和３年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

事業実施団体

神原地区まちづくりサークル

事業名	2	健康づくり事業			
事業期間	令和３年４月１日～令和４年３月３１日				
決算額	128,420 円		助成金充当額	120,000 円	
事業対象者	神原地区民		参加人数	568名	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・毎月２回末永整骨院のスタッフを講師に招き健幸ストレッチ教室を実施、３８８名の参加 ・毎月１回かみはら健康相談を実施、１８０名の参加				
事業目標	健康づくり活動の充実 ・健康相談の参加者１０名を目標とする				
	数値目標		令和３年目標	令和３年実績	
	８０％の達成をめざす		80%	150%	
	(達成できた、又は、できなかった要因) ・150%の達成率、健康思考が定着しつつある。この数字が保てるよう努力していきたい。				
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) ・健幸ストレッチ教室も健康相談も地区民に浸透してきて参加者が定着してきた。高齢者も増えてきた現在、健康意識の定着を図ることは大いに必要なことである。				
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ・十分な成果が見られるようになってきた。さらに健康意識を持たせるような工夫をしていきたい。				
自己評価 (３段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	2	③
	今後も事業継続できますか		1	2	③

(添付書類用)

令和３年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体

宇部市立神原小学校

事業名	3	小中学校連携事業			
事業期間	令和３年４月１日～令和４年３月３１日				
決算額	３５，０００円		助成金充当額	３５，０００円	
事業対象者	神原小学校及び神原地区コミュニティ		参加人数	児童数３４３人＋保護者 ＋地域の方	
事業内容	○学校・家庭・地域が連携した「登下校の見守り活動」、「通学路の安全点検」、「通学路の安全マップの作成」など、児童の安心・安全な登下校の継続的支援。 ○神原小学校の防災学習・訓練に向けた神原校区自主防災会と県・市関係機関との連携構築。 ○神原中学校区学校運営協議会（神原小、見初小、神原中）における、各小学校やコミュニティの取組状況等の情報共有及び取組の推進。				
事業目標					
	数値目標		令和３年目標	令和３年実績	
	(達成できた、又は、できなかった要因) 新型コロナウイルス感染症対策のため、実施できたものでなかったものがあるが、神原地区の各団体及び関係機関が連携しながら、神原小学校の学習や行事に参加することで、学校の地域連携教育の推進に寄与できた。				
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 学校・家庭・地域が連携した「登下校の見守り活動」、「通学路の安全点検」、「通学路の安全マップの作成」、神原地区子ども委員会主催の神原チャレンジクラブ、ふるさと運動部会主催のおもしろ遊びと工作教室など、児童の安心・安全な生活や地域に軸足をおいた諸活動を支援することができた。防災学習・訓練では、神原地区自主防災会や関係機関が連携して実施し、児童の防災意識の向上を促すことができた。小中合同クリーン作戦では、地域の方や中学生と一緒に、本校６年生が校区内の公園をきれいにすることができた。また、神原校区の文化祭では、作品展示や６年生によるビデオメッセージ等で、小学生も参加の機会を得ることができた。				
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 小中学校連携事業（地域連携教育）については、これまでさまざまな活動を行ってきた。本年度は現在行っている取組について、神原中学校区の合同学校運営協議会で検証する予定だったが、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に振り返りの機会を十分もつことができなかった。次年度は感染症の動向を見ながら、さらなる活動の推進を図りたい。				
自己評価 (３段階評価) １：不十分 ２：効果的 ３：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2	3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2	3
	多くの住民の参加が得られましたか		1	2	3
	今後も事業継続できますか		1	2	3

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

事業実施団体 宇部市立神原中学校

事業名	3	小中学校連携事業		
事業期間	2021. 4. 1～2022. 3. 31			
決算額	20,000円		助成金充当額	20,000円
事業対象者			参加人数	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ①「学校運営協議会の開催」 ・年間5回(うち2回は小学校と合同)の会議を予定していたが、コロナ禍のため小学校との合同会議が2回実施できなかった。学校の現状分析や学校評価の検討・評価等を行った。 ②「地域とつながる活動」 ・中学生が地域の情報を入手することができるように地域の情報コーナーを校内に設置した。 ③「クリーンアップ」 ・中学生と教職員が地域で清掃活動を行った。小学生も参加して取り組んだ。 ④「神原・見初美術館」 ・コロナ禍のため、地域の公民館活動等による作品展示は行わなかった。 ⑤「花いっぱい運動」 ・「花いっぱい運動」は実施できませんでしたが、本校でボランティアを募り、神原ふれあいセンター周辺の花壇の整備を行った。			
事業目標	神原中校区でめざす子ども像「思いやりの心をもつ人」「考えて行動する人」「地域に貢献する人」の具現化を図る。			
	数値目標	令和3年目標	令和3年実績	
	・神原中学校評価アンケートにおいて「地域と関わりをもてた」とする生徒を70%以上。	・学校運営協議会に生徒会執行部役員を参加させる。 ・見初校区芸能文化祭に中学生が運営するブースを出店させる。	・第1回学校運営協議会に生徒会執行部が参加し、地域のために貢献したい思いを委員に伝えた。 ・地域貢献を積極的に行った。 ・神原中学校評価アンケートにおいて「地域と関わりをもてた」とする生徒62.8%。	
事業効果	(達成できた、又は、できなかった要因) コロナ禍において、学校運営協議会で、コミュニティ・スクールの意義である「学校運営」「学校支援」「地域貢献」を十分地域に説明することができなかった。また、行事の中止や会合等が行えなかったせいもあり、生徒の地域貢献の場がたくさん削られる結果となり、「地域との関わりをもてた」とする生徒が目標値に達しなかった。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 山口県教育委員会が掲げる「地域教育力日本一」の実現に向けて、コミュニティ・スクールのさらなる推進・充実を図る必要がある。学校運営協議会を中心に熟議を重ね、「学校運営」「学校支援」「地域貢献」の3つの機能を進化させていく。			
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和３年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

事業実施団体

神原地区コミュニティ推進協議会

事業名	4	コミュニティ行事運営事業		
事業期間	令和３年４月１日～令和４年３月３１日			
決算額	855,056 円		助成金充当額	175,000 円
事業対象者	神原地区民		参加人数	981人
事業内容	（どのような事業を、どのように行ったか） ・春のさわやかウォーキング（山口フラワースランド 参加者 ４５名） ・秋のさわやかウォーキング 中止 ・夏まつり 中止 ・神原ポッチャ大会 中止 ・神原ボーリング大会 中止 ・三世代交流つり大会（宇部港で実施 150名参加） ・神原文化祭 １０月３０、３１日実施（参加者 約３００名） ・新年互礼会 １月７日実施（参加者 ７８名） ・神原ひなまつり ２月２０、２１、２２、２３日実施（参加者 ４０８名）			
事業目標	地域のふれあいの場となる行事、イベントの企画・運営			
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績
	各行事、５回以上の会議を設ける			5回以上実施
	（達成できた、又は、できなかった要因） ・達成できた。コロナ化のおり、できる限り実施する方向で、考え方を統一し、会議を進めながらぎりぎりのところで実施か否かを判断した。当然会議数は多く行うようになった。			
事業効果	（事業の実施により、どのような効果が得られたか） ・会議を多く持つことにより当然コミュニケーションが図れるようになったし、実施するという前向きな姿勢でいるため、気持ち的にゆるむことはなかった。いろいろなことを想定し、各行事に取り組めた。			
今後の課題等	（事業の必要性、継続していくための課題や改善点など） ・コロナ化のため、行事・イベントの取り組みが難しく、中止にするのが簡単ではあるが、それではコミュニティの弱体化につながってしまう。「どうしたら実施できるか」という考え方でしっかりと協議し、結論をだすべきである。春・秋のさわやかウォーキングは高齢化とともに参加者が少なくなってきた。来年一年かけ、どうすべきか協議していく予定である。			
自己評価 （３段階評価） 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2 ③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和３年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

事業実施団体

神原地区社会福祉協議会

事業名	5	敬老事業		
事業期間	令和３年４月１日～令和４年３月３１日			
決算額	804,144 円		助成金充当額	370,000 円
事業対象者	神原地区の高齢者		参加人数	1,196名
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・独居ふれあい昼食会を１１月１９日（参加者３６名）と３月１１日（参加者３５名）２回実施 ・７５歳以上の高齢者に敬老の日に記念品の配布（１，０３５名）を行う。			
事業目標	閉じこもりを無くし、元気で活動できる高齢者を支援する。			
	数値目標		令和３年目標	令和３年実績
	５人以上の新しい参加者を増やす		８０名	７１名
	(達成できた、又は、できなかった要因) ・達成率８９％。まばらではあるが新しい参加者の顔ぶれも見られた。男性の参加が少なく、これからの課題である。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) ・毎回参加されている方も多く、この会を楽しみにしておられる。講話や軽い体操などを入れ、高齢者に生活の支援になる事柄等を加味し、この会を企画している。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ・独居ふれあい昼食会はまだもう少し男性の参加者が増えるような工夫をする必要がある。 ・高齢者敬老記念品の配布について、年々高齢者数も増加しており、予算的にも今後のあり方を一考しなければならない時期にきている。			
自己評価 (３段階評価) １：不十分 ２：効果的 ３：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	2 ③
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和３年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

事業実施団体

神原地区コミュニティ推進協議会

事業名	6	広報・デジタル事業		
事業期間	令和３年４月１日～令和４年３月３１日			
決算額	845,207 円		助成金充当額	371,100 円
事業対象者	神原地区民		参加人数	1 8 0 人
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・神原だより編集会議 ・毎月、編集会議の実施（ 84名） ・デジタル化会議の実施（基本的に第２・第４火曜日 96名） ・ホームページやSNSによる広報活動 ・各コミュニティ団体による行事・イベントの広報活動			
事業目標	にぎわいをつくれる広報活動 ・各行事に若い世代の参加者の増員を図る。			
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績
	5 0 %の若い世代の参加率		50%	40%
	(達成できた、又は、できなかった要因) ・ホームページやSNSでの発信は極力行っているが、まだまだ定着していないので思ったような成果はでていない。あせらず続けることが必要である。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) ・徐々にではあるが、いろいろな場面でデジタル化を活用し、活動しているがすぐに成果を求めるのは難しい。継続していくことにより成果を得られるものと考え、これからも取り組んでいきたい。 ・会議を行うことで、みんながどうすれば成果が上がるか、アイデアがだされ企画されている。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ・神原だよりは老若関係なく、読みやすく、読みたくなるような記事・構成を工夫しなければならない。 ・これからの時代を考えれば、ホームページやSNSの活用は切っても切れないものとなってくる。今、一部の人間で作成しているが、これを多くの地域の人より企画されるようにならなければ地域に定着したものとはならない。			
自己評価 (３段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2 ③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和３年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

事業実施団体

神原地区コミュニティ推進協議会

事業名	7	コミュニティ菜園事業			
事業期間	令和３年４月１日～令和４年３月３１日				
決算額	148,686 円		助成金充当額	50,000 円	
事業対象者	神原地区民		参加人数	1,260人	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・畑を活用した行事（モリモリ恵み体験隊・芋うえ、芋掘り 参加者６０名） ・玉葱・サツマイモの栽培を行い行事に活用（コロナでイベント中止であまりできなかった） ・栽培した物の販売（１００円袋にし、センターで販売。すぐに売れ袋づめが大変だった。） ・畑の貸し出し（２８畝 目標を大きく超えた）				
事業目標	多くの住民のコミュニケーションの場づくり ・貸し出し２０畝をめざす				
	数値目標		令和３年目標	令和３年実績	
	９０％実現をめざす		１８畝	26畝	
	(達成できた、又は、できなかった要因) ・達成率１４４％。菜園らしくなり、貸し出しも目標をはるかに上回りにぎわいができた。 ・団体行事などの場面で、活動する人が限られてきてやや消極化となっている。				
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) ・野菜づくりに興味のある人の参加が増え、貸し出し畝数も大幅に増えた。菜園にコミュニケーションが生まれるようになってきた。				
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ・女性の参加者がほとんどで力仕事になると人手不足となる。男性の参加者・協力者をもっと増やしていかなければならない。				
自己評価 (３段階評価) １：不十分 ２：効果的 ３：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	2	③
	今後も事業継続できますか		1	2	③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

子ども会育成連絡協議会
文化体育委員協議会
ふるさと運動部会
地域活動連絡協議会
母子保健推進委員会
子ども委員会

事業名	8	子ども育成事業			
事業期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日				
決算額	345,300 円		助成金充当額	110,300 円	
事業対象者	神原地区民		参加人数	592名	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・子ども会行事の運営（神子連ドッチビー大会 230名、市子連ドッチビー大会 80名、宿泊野外研修30名） ・中学校での「子育て広場」の開催（コロナのため中止） ・ちびっ子サークルの開催（2回実施 20名） ・三世代交流つり大会（子ども80名参加） ・子どもチャレンジ教室の開催（14講座 152名）				
事業目標	子どもの参加者を増やす ・竹細工や昔遊び講座の参加者を30人を目標とする				
	数値目標	令和3年目標		令和3年実績	
	80%の参加をめざす	30人		25人	
	(達成できた、又は、できなかった要因) ・達成率83% 目標は達成できた。コロナのため「流しソーメン」は中止をせざるを得なかった。代わりに昔遊びを行った。状況を把握しながら臨機応変に内容変更が行える体制を組んでおきたい。				
事業効果	・コロナ化の中で多くの子どもたちの参加がえられ、子ども達の喜ぶ姿が見られた。「どうしたらできるのか」アイデアを出しながら実施することの必要性を感じた。中止をかけるのが一番無難で簡単ではあるが、それでは何も求められない。				
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ・子どもたちにいろいろな体験をさせ、活動する喜びを与えてやりたい。地域の活性化のためにも子どもたちに活力を与えてやる必要がある。地域の子どもたちは地域で育てるという信条でこれからもしっかり活動していきたい。				
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	②	3
	今後も事業継続できますか		1	2	③

(添付書類用)

令和３年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

ふれあい運動推進委員会
事業実施団体 交通安全推進委員会
防犯連絡所指導員協議会

事業名	9	安心・安全事業			
事業期間	令和３年４月１日～令和４年３月３１日				
決算額	159,050 円		助成金充当額	45,000 円	
事業対象者	神原地区民		参加人数	1,630名	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・月２回の夜のパトロール（参加者 延べ180名） ・青パトによる登下校の見守り（延べ450名） ・登下校時の見守り活動・交通指導（延べ1000名）				
事業目標	安心・安全な街づくりをめざす ・子ども・高齢者の事故をなくす				
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績	
	子ども・高齢者の事故 0		0	0	
	(達成できた、又は、できなかった要因) ・達成できた。登下校の見守りや、青パトによるパトロール等地道な活動の成果であろう。今後も悲惨な事故がないよう見守りたい。				
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) ・登下校時の見守り、交通指導、青パトでのパトロール、第１・第３月曜日の夜のパトロール活動、地道な毎日の活動によって安心・安全な街づくりが営まれている。				
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ・どの団体も高齢化が進み、継続していくためには若い住民の参画を募らないといけない。地域が安心・安全であるために、早急に進めなければならない問題ととらえている。				
自己評価 (３段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	②	3
	今後も事業継続できますか		1	2	③